

## 市主催講座〈なごや学〉尾張徳川家の殿様③

### ～尾張徳川家の相続と歴代の事績～

なごや学「尾張徳川家の殿様」5回シリーズの講座の第3回を9月1日（木）に行いました。名古屋城調査研究センター主任 原史彦氏に10代斉朝から13代慶藏までのお話をいただきました。



10代藩主に一橋家から斉朝を、11代藩主に11代将軍家斉の19男（斉温）を迎えます。後継ぎが生まれないのでこの後も何代か養子が続きます。尾張藩の財政が逼迫する中、斉温が21歳で亡くなると、付家老成瀬正住らの主導で将軍家斉の12男で田安家当主になっていた斉荘を12代藩主に迎えます。

藩内でこれに反発する声が高まり、分家の高須松平家からの当主を望む「金鉄党」が結成されます。しかし、その後も田安家から13代藩主慶藏を迎え、14代藩主も田安家から迎えようとする動きがあったため、尾張藩内の武士や町人の不満が膨らんでいったのです。



財政難、後継ぎ問題、付家老の思惑などが絡みあって藩内に緊張感が高まっていったことがわかりました。時代の空気をイメージできる、そんなお話でした。

原史彦先生、ありがとうございました。